



Business Report

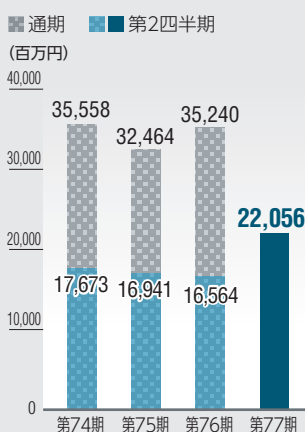
連結財務ハイライト (第77期 第2四半期)

Point 1 売上高は、上半期としては過去最高

Point 2 半導体用などエレクトロニクス分野の需要が高水準を維持

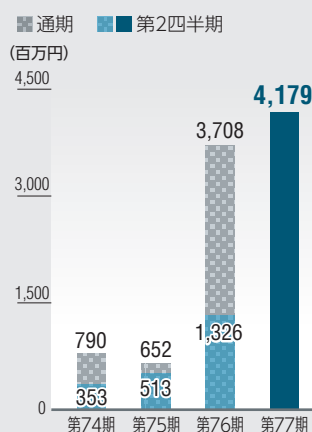
売上高

220億56百万円
前年同期比 **33.2%増** ▲



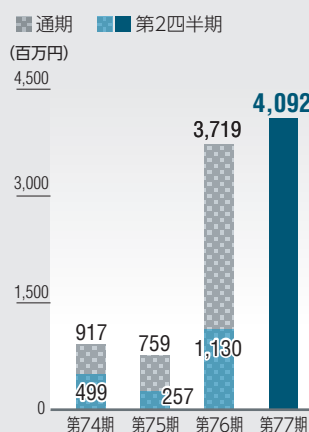
営業利益

41億79百万円
前年同期比 **215.1%増** ▲



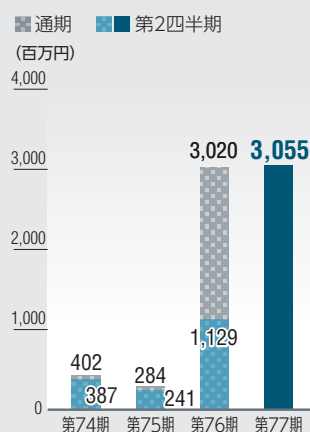
経常利益

40億92百万円
前年同期比 **262.2%増** ▲



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益

30億55百万円
前年同期比 **170.5%増** ▲



通期業績予想

売上高

410億円
前期比 **16.3%増** ▲

営業利益

65億円
前期比 **75.3%増** ▲

経常利益

64億円
前期比 **72.1%増** ▲

親会社株主に帰属する 当期純利益

47億円
前期比 **55.6%増** ▲



ごあいさつ

このたび、代表取締役役に就任いたしました近藤 尚孝でございます。私は、当社における海外展開の先駆けとなるアメリカでの子会社設立を担当したことを皮切りに、欧州、アジアへの進出にも深く携わってまいりました。その後、私自身もアメリカ子会社の社長として現地に常駐しましたが、これらの経験の中で、グローバルレベルでの厳しい事業環境を目の当たりにしてまいりました。

私の使命は、当社が持続的に発展を遂げることにより、株主の皆様のご期待にお応えすることと心得ております。そのためにはコーポレート・ガバナンスの一層の強化が不可欠であり、経営の透明性を確保しながら、グローバルレベルでの経営管理体制の高度化を進めます。「真のグローバル企業」としてさらなる成長を遂げるべく、全力で尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO

近藤 尚孝

Top Message

第77期 第2四半期の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では個人消費や設備投資の増加から景気の回復が続き、欧州では英国のEU離脱問題が懸念されつつも、景気は緩やかな回復基調にあります。新興国では景気の持ち直しが続いているものの、米中貿易摩擦により世界のけん引役であった中国の経済減速が懸念されています。また、国内経済は、企業収益や雇用情勢の改善により、設備投資の増加や個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調で推移しました。

当企業グループを取り巻く事業環境は、好調な半導体市場を背景に、各種ウェハー製造装置向け製品の需要が増加し、輸送機器関連市場においても、自動車向けの放電加工電極や、電車向けパンタグラフ用すり板などが堅調に推移しました。そのほかエネルギー関連市場では、海外需要の増加を受け、風力発電や太陽電池などの自然エネルギー関連製品が好調に推移しました。

このような中、当企業グループは、競合他社との激しい競争が継続し、依然として厳しい状況にあるものの、中期経営計画の達成に向けて、高付加価値製品の生産・販売強化や、採算性

の改善、新製品・新規事業開発の推進に努めてまいりました。

なお、平成20年に受注した中国高温ガス炉(HTR-PM)向け黒鉛材は、第1四半期において検収が完了し、32億16百万円の売上を計上しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高220億56百万円(前年同期比33.2%増)、営業利益41億79百万円(同215.1%増)、経常利益40億92百万円(同262.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益30億55百万円(同170.5%増)となりました。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、海外の政治経済の不確実性が懸念され、先行き不透明な状況が続くと予想されます。このような情勢の下、当企業グループでは、グローバルでの事業規模の拡大や収益基盤の強化を加速し、今後も皆様に支持される企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年9月

部門別の概況

特殊黒鉛製品

【エレクトロニクス分野】

- 単結晶シリコン製造用
- 化合物半導体製造用
- 太陽電池製造用

【一般産業分野】

- 冶金関連
- 放電加工電極

【その他】

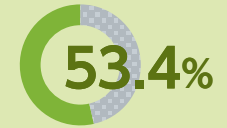
- 先端プロセス装置用
- 原子力、宇宙航空 ●医療用

- エレクトロニクス分野：太陽電池用の需要好調に加え、半導体用も順調に推移したことにより前年同期を大幅に上回りました。
- 一般産業分野：放電加工電極用は前年同期を若干下回ったものの、工業炉用が好調に推移し、前年同期を上回りました。
- 特殊黒鉛製品全体としては、中国高温ガス炉(HTR-PM)向け売上を計上したことなどにより、前年同期を大幅に上回りました。

■売上高

117億69百万円
前年同期比58.5%増▲

■売上高構成比



一般カーボン製品

画像提供：
東日本旅客鉄道(株)

【機械用カーボン分野】

- 一般産業機械用
- 輸送機械用

【電気用カーボン分野】

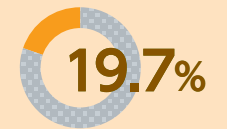
- 小型モーター用
- 大型モーター用

- 機械用カーボン分野：主力製品である軸受・シール材、パンタグラフ用すり板などの需要が好調に推移したことにより、前年同期を上回りました。
- 電気用カーボン分野：競合他社との競争が激しい状況にある電動工具用やクリーナー用が軟調に推移したことにより、前年同期を若干下回りました。

■売上高

43億53百万円
前年同期比2.9%増▲

■売上高構成比



複合材 その他 製品

【主要3製品】

- SiCコーティング黒鉛製品
- C/Cコンポジット製品
- 黒鉛シート製品

【その他】

- SiC(炭化ケイ素)コーティング黒鉛製品：半導体用およびLED用の需要が増加するなど、前年同期を上回りました。
- C/Cコンポジット製品：太陽電池用および半導体用が好調に推移したほか、工業炉用も堅調に推移し、前年同期を上回りました。
- 黒鉛シート製品：自動車関連および冶金用が堅調に推移するなど、前年同期を上回りました。

■売上高

49億3百万円
前年同期比11.9%増▲

■売上高構成比



生産設備の増強

詫間事業所内に 黒鉛シート工場を増築

近年、半導体の製造工程や、電気自動車(EV)向けの保護材などの分野で、黒鉛シート製品の需要が高まっています。こうした需要の増加を受け、このたび、詫間事業所内に黒鉛シート工場の新棟を建設し、生産能力の増強を図るとともに、自動化設備の導入による生産性向上や作業環境の改善を行いました。

今後も、お客様のニーズに応じた生産能力の増強、販売体制の強化といった成長戦略を実行することにより、黒鉛シートをはじめとする高機能材料事業の拡大を目指してまいります。

【所在地】香川県三豊市詫間町松崎 2791 詫間事業所内

【延べ床面積】約1,100平方メートル

Topic



新工場の外観



6月29日に執り行った竣工式の様子



黒鉛シートPERMA-FOIL®

会社情報・株式情報

会社概要

(平成30年6月30日現在)

設立	昭和22年7月31日
本社	〒555-0011 大阪市西淀川区竹島5-7-12
資本金	7,906,091,798円
従業員数	830名(単体) 1,695名(連結)

役員

(平成30年6月30日現在)

代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO	近藤 尚孝
取締役	石畑 成人
取締役	セン 鷹 コブケン 国彬
取締役	堤 宏記
取締役	山田 昌吾
取締役	岩本 宗
取締役	山形 康郎
常勤監査役	前川 和廣
監査役	田中 耕一郎
監査役	高坂 佳郁子

※取締役 山田 昌吾氏、岩本 宗氏および山形 康郎氏は社外取締役、
監査役 田中 耕一郎氏および高坂 佳郁子氏は社外監査役です。

株式の状況

(平成30年6月30日現在)

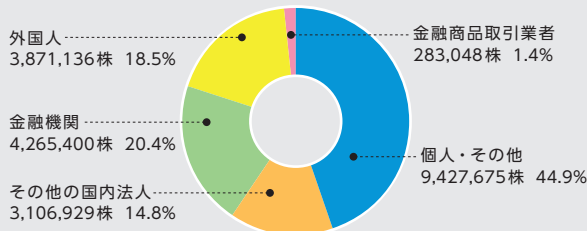
発行済株式の総数	20,954,188株
単元株式数	100株
株主数	5,900名

大株主

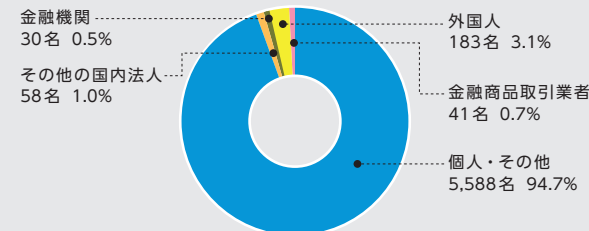
(平成30年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
森田 純子	3,278	15.65
近藤 朋子	1,560	7.45
近藤 尚孝	1,214	5.79
近藤ホールディングス株式会社	1,165	5.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	859	4.10
公益財団法人近藤記念財団	834	3.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	712	3.40
NTコーポレーション株式会社	626	2.99
近藤 孝子	620	2.96
株式会社みずほ銀行	360	1.72
株式会社三菱UFJ銀行	360	1.72

所有者別株式数分布状況



所有者別株主分布状況



(平成30年6月30日現在)

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当 毎年12月31日 中間配当 毎年6月30日
公告方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告掲載ホームページアドレス	http://www.toyotanso.co.jp
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	5310

■未受領の配当金について
三菱UFJ信託銀行の本店でお支払いいたします。

■株式に関する各種お手続きについて
株式に関するお手続き(住所変更、配当金振込先のご変更、相続手続き等)につきましては、株主様が口座開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

■特別口座に記録された株式に関する各種お手続きについて
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
電話 0120-782-031 (通話料無料)

ホームページのご案内

ホームページでは当社の事業活動や最新のニュースリリースを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。



東洋炭素 株主通信

検索